

# 八中3年人権だよ

鶴岡市 八万中学校  
3年生 第12号  
2021年 6月25日  
編集・文責 吉成正士

6月18日に、「八中3年人権作文発表会2021」を実施しました。各クラスからの代表者が、次の順番と演題で発表してくれました。

MR「自分がされて いやなことは人にもするな」  
NY「『人と違う』ということ」  
KJ「ぼくのなかにいる いとこ」  
KE「今も昔も変わらない部落差別」  
TA「自分の心と体」  
SK「気持ち」

内容は、コロナ差別、身体的特徴、障がい者差別や命、部落差別や性的マイノリティについてなど、多岐のわたりました。今回は発表会の感想を通して、どんな思いを持った人がいるのかを知ること、みなさんの視野がさらに広がればと思います。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■この発表会を通して、さらに人権についての考えが深まった。

宮内くんはまずトップバッターというプレッシャーに打ち勝って自分の意見を言い切ったこと、すごいと思った。

中島くんの作文では人と違う個性、ありのままの自分での大切さや思いきってカミングアウトすることの意味について知った。

角くんの作文は、聞いたときに一番衝撃的だった。それと同時に多くの思いが伝わってきた。命の尊さや生きてくても生きられなかった命のこと、そんな人の分まで僕たちが精一杯生きること、それを脅かすような差別をしないことが、心の中に強く刻まれた。

栗名くんの作文では、「部落史」自体、「部落差別」自体が根拠がなくて、何一つとして正しくないけど、それでもデマ情報を流すことへの怒りや、人権意識は社会全体としてまだまだ足りてないんだなと思った。

多田さんの作文では「ジェンダーレス」という言葉をSDGsを通じてよく聞くようになって、少しずつ理解が深まってきたと思っている。でも、とある国会議員が、「少子高齢化が進むから同性婚なんてもってのほか」と言っていたのを思いだして、あまり浸透していないと考え直した。

そして最後に四宮さんの作文。「かわいそう」や「部落差別」という言葉には、僕も言うのに少しはばかれる感じがするので共感した。そう感じるようになったのは、学習を通して人権に関する感覚が鋭くなっているんだと少しうれしかった。

今日の発表会では文章に収まりきらないような多くの思いがこみ上げてきた。そして、前回よりかなり多くの意見が、時間が押してしまうほど上がってきたことに、この1年で特にみんなの意識が変わったなと感じたし、良い傾向だと思った。 6組 KY

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■今日、僕は人権作文発表会で、いろいろな学んだことや、改めて思ったことがたくさんありました。

まず最初に宮内さんの意見について。自分が相手の立場になって同じ気持ちになったら絶対つらいだろうし、本当でもないわさを流し、相手の気持ちを傷つけるというこ

とは本当にだめだと思いました。

そして中島さんの意見で、人権学習をしている意味がないと最初は思っていたけれど、みんなの意見を知れる機会でもあり、相手の気持ちを知れるいい機会でもあるということを知り、すごく大事な学習だと思いました。

次に角さんの意見で、僕は赤ちゃんがお腹の中で亡くなったという話は聞いたことはあるけれど、実際身近に起こっていないので、あまり角さんの気持ちのように思えないかもしれないけど、実際本当に身近にあったとしたら、絶対に悲しいと思うので、今、僕が生まれてこられて、当たり前前にいられていることに感謝したいです。

今日僕が学習したことはまとめると、周りの意見を取り入れ、自分だけの意見だけではないということが学べました。そして、差別についてもっと知り、差別がいけないことだと言えるようになりたいです。今、生きられていることがどれだけ幸せかをもっと考えたいです。 2組 SA

▼△▼ △▼△ ▼△▼

中3の途中ぐらいから卒業にかけて、精神面がグンと成長するような感覚があります。みなさんには分からないかもしれませんが、子どもが大人になるような感覚、さなぎが脱皮をするような感覚です。だからこそ、今のこの時期に人権学習をすることは、すごく意味があります。なぜなら人権や差別について、自分の中だけで考えて自己完結させるだけではなく、他者の意見や考えを取り入れて自分の考えを練り直せるからです。そういう経験をして大人になると、そういう経験がないまま大人になるのでは、その後の考え方や生き方に大きな違いが出てくるように思えるのです。まだまだこれから。もっと知り合ひましよう。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■6人の人たちの作文は、どれもとても考えさせられるものばかりでした。

中島さんの作文で、「ありのままの自分を見せる」という言葉が一番印象的でした。どうしても、ありのままの自分を見せることは恥ずかしいものだとずっと思っていました。でも、作文を聞いて、「別に隠さなくてもいい」という考えに変わっていました。人権作文発表会は、こうした自分の中にある固定観念を変えて、新しい発見や間違いに気づける、とても大切な場だと思いました。

そして、6人の人たちが読んでくれた中で、どの作文も心に残っているけど、一番角さんの作文が心に残っています。私が今、学校に行けて、障がいもなく生活できているのは、当たり前ではないんだと、角さんの作文で感じる事ができました。そして、私たちと何も変わらないのに、障がい者の人に対して差別をすることはおかしいと思いました。本当に、障がい者に対する差別がなくなればいいなと思いました。

今回の人権作文発表会や過去の人権作文発表会、道徳の授業のとき発表しませんでした。いつも「発表せなあかん」や「発表せな」って思っただけで、行動に移せませんでした。だから、これからがんばって発表しようと思いました。 4組 YK

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■人権作文発表会を聞いて、いろいろな意見があつてどれも共感できたので、同じ考えの人がいてうれしいなという気持ちになりました。

宮内くんの発表では、「自分がされていやなことは人にもするな」でした。救急車が来ただけですぐに「コロナかな？」と思うのはすごくおかしいことだと思つたし、なんですぐに決めつけるのか理解できませんでした。ひどいことを簡単に人の耳に入るくらい大きな声で言うべき発言だったのかと考えてほしいなと発言した人には思つてしまいます。私も発言には気をつけていきたいです。

角くんの発表では、話を聞いていてすごく悲しくなりました。ですが、その子のことを思い続けることで、その子は家族の人たちの中でずっと生きています。命の尊さにあらためて気がつけた作文だと思つました。

多田さんの発表はLGBTQについての発表でした。私は中1くらいから知っていたし、多田さんの言っていた配信者さんのことも知っていたので、ある程度は理解していましたが、発表が終わると吉成先生からの訂正があり、「性同一障がい」は障がいではありませんと言つたことで、見えてくるものが少し変わりました。確かにと思つました。名前からして差別しているのではと思つました。また一つ考え方が変わり、少しうれしくなりました。これからも考え方は常に新しくしていくべきだと思つました。

四宮さんの発表では、「かわいそう」は同情、下に見るというふうに言つていましたが、私もそう思うことがありました。小さい頃、小学生の頃は本当に悪気はないけど、使つたことが何回かあります。今思うと、もっと考えて発言すべきだったなと思つました。今回の6人の発表を聞いて気づかされる部分がたくさんあつたし、6人の考え方を元に発言や行動に気をつけていこうと思つました。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

いつも思うのですが、人を変えるのは、人なんですね。しかも、同世代の「生の声」に勝るものはないと思つます。みんなの言葉が、みんなを変えていきます。つまり、みんな自身が、生きた教材なのです。

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■初めて人権作文発表会のクラス代表になつたにも関わらず、詰めが甘いというか、何というか、もっとよく調べて書けば良かったと大後悔しました。もし、自分のこの作文で誰かが傷つてしまったらと思うと、心配で心配でなりません。やはり、自分だけの知識で書くのは危ないことだと改めて思つました。本当に人を傷つけないためには、本当の正しい知識を得て、まず自分の間違いを正すことだと思つました。私はそれができていなかったもので、本当に申し訳ないと思つていました。

他5人の作文には、共感するところも、内心ドキッとしたところも、ものすごくありました。私も彼らのように、もっと立派な考えを持ちたいと思つます。浜崎先生の言つていたように、角さんのように誰かに寄り添える人になりたいです。そのためには、相手の気持ち、立場にたつて物事を考え、その物事を考える材料として、正しい知識が必要だと思つます。

今日、学んだことや、自分のずさんだつたところなど、そういうものを生かして、正しいことをしたり、人を傷つけないと思つます。

3組 TA

▼△▼ △▼△ ▼△▼

■私は6人の発表を聴いて、本当に良い機会になつたと

思いました。私は「〇〇はかわいそう」と無意識のうちにたくさん言つたり思つたりしてきていました。けれど、それが誰かを傷つける差別発言であり、それに気づかずに無意識で「無知」であるということは、とても恐ろしいことだつたのだということに気づかせてもらいました。

また、「性同一障がい」という言葉に「おかしい」と思えなかつた私は、最低だと思つました。もし、自分が「障がい」だと言われたら、絶対に悲しくてつらいだろうに、自分は言われると嫌なことを無意識のうちに言つていたということに反省しました。それに私が気づかないことで、負の連鎖のバトンをつないできてしまったのだと思つました。だから私はこれから、生きていくことに感謝し、生きていくからこそ生きていく私たちが行動していこうと心に決めました。また、私のように自分が間違つているということに気づいていない人はたくさん居ると思つます。そんな人たちに私が正しいことを教えていくことで、世の中を少しでも良い方向に変えていこうと心に誓いました。今回の発表会がこれだけで終わらないように、しっかりと行動していこうと思つました。

1組 MA

▼△▼ △▼△ ▼△▼

「間違つてるかもしれないけどいいですか？」

授業中、1年生にたびたび訊かれる言葉です。もちろん、「いいですよ」と答えます。「教室は間違つるところ」です。人は間違いや失敗を重ねながら成長していくものです。

発表会の途中、私から、「数年前までは『性同一障がい』という言葉を使つたけど、これは障がいではないから、今はもう使いません。『性別違和』『性的マイノリティ』『LGBT』様々な呼び方がありますが、これは障がいではありません」と訂正させてもらいました。それを、私が思う以上に真摯に受けとめていた人がいて、恐縮してしまいました。でも、立ち止まらないでくださいね。

間違いや失敗を指摘されると、萎縮してしまいがちになります。「間違つたことを言つて人を傷つけるくらいなら、言わないでおこう」と口を閉じてしまうものです。でも、「教室は間違つるところ」です。なおしていけばいいだけです。変わっていけばいいだけです。間違いを恐れて発言を控えてしまうようなことをすれば、結局人は何も言えなくなつてしまいます。それは、あつてはならないことです。

SNSは便利な道具ですが、人の間違いや失敗を指摘したり、攻撃したりした大量の書き込みで、「炎上」することがあります。そんな目に遭えば、萎縮して何も言えなくなつてしまいます。

人は間違つる生き物です。間違いを正してくれるのは仲間です。正すときには、相手の気持ちをおしはかることです。そんな仲間を大切にしてください。そして、間違つたと思えば、「ごめんなさい」です。スナオにそう言えば、それでいいのです。そして、ゆるすこと。そんな寛容な心になっていくことです。そんな世の中になっていけば、「炎上」なんてなくなつていくのだと思つます。世の中には、人権学習が必要です。

今回の人権だよりは、みなさんの書く量が多くて、なかなかコメントできませんでした。うれしい悲鳴です。

次回もこの続きを紹介したいと思つます。